岩手県ユニセフ協会ニュース No.27

unicef

Iwate Association for UNICEF

2011年9月
【発　行】
岩手県ユニセフ協会
（旧 日本ユニセフ協会岩手県支部）

〒020-0180
岩手郡滝沢村土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.jp
ホームページ　http://www.unicef-iwate.jp/

ユニセフ・東日本大震災支援

東日本大震災　ユニセフ、半世紀ぶりの日本への支援を表明

3月11日14時46分、M9.0、震度7という記録史上初めての巨大地震、この大震災に対し、ユニセフは日本支援を表明しました。日本の子どもたちへの支援は、第2次世界大戦直後の昭和24年から昭和39年まで15年間続いた「粉ミルク(脱脂粉乳)」などの支援や、昭和34年の伊勢湾台風被災者への支援以来となります。

ユニセフ本部はソマリヤとアフガニスタンで活動している國井修医師を派遣、日本ユニセフ協会菊川職員とともに3月21日、協力団体である岩手県生協連・いわて生協・岩手県学校生協と協議し、具体的な物資調達・物流手段などを確保し支援活動を確認しました。

▲ユニセフが岩手県生協連加藤善正会長に支援要請

救援物資ユニセフから届く

3月23日、ユニセフから男児・女児用下着3万枚がいわて生協に到着、24日、いわて生協の支援で県内6ケ所(釜石市・大船渡市・陸前高田市・宮古市・山田町大槌町)の物資支援センターに届けられ、避難所に届けられました。その後も子ども用下着・靴・長靴・お尻ふきなど支援物資が到着し、現地に届けられました。

▲いわて生協、子供用肌着を積んで被災地へ

新学期に向けて・16700人に学用品届ける!

被災地の小・中学生16700人分の学用品は、岡山県ユニセフ協会と近隣の県ユニセフ協会のボランティアでセットされ、岩手県学校生協・岩手県教職員組合のみなさんによって、各学校に届けられました。

▲岡山でセット作業するボランティアの方々

▲荷下ろしする学校生協のスタッフ

▲被災地に向けて…岩教組ボランティア

ⓒ日本ユニセフ協会

先進国として、途上国の子どもたちの支援をしてきた日本に対し、
日本のみならず世界から東日本大震災緊急募金が寄せられています。

私たちを遠くから見守ってくれてありがとう!

「お礼のお手紙」が届きました

3月11日の地震と津波で、学校の1階そして、今まで楽しく暮らしていたお家や車、お父さんの仕事場も流されました。お父さんの仕事の都合で内陸の学校に転校しました。

前の学校の先生やお友達とお別れするのがとても悲しかったけど、だんだん新しい学校にもなれてきて、今は楽しく学校へ行っています。ユニセフからいただいた学用品を大切に使って勉強をもっとがんばります。

そして将来、人の役に立つようなお仕事がしたいです。私たちを遠くから見守ってくださって、ありがとうございます。どんなときも、負けないで、がんばっていきます。
ありがとうございました。（小学校6年生）

子どもたちにとって優しい“地域”が復興されること、そのために保健医療栄養サービス、学校、保育園、幼稚園の再興、心理社会的支援システム（心のケア・保護）など、ユニセフは支援活動をすすめています。

岩手県ユニセフ協会新会長に、三浦　宏 岩手日報社代表取締役社長が就任

「財団法人日本ユニセフ協会」は、2011年4月1日、「公益財団法人」となり、ユニセフ岩手県支部との間で、「協力協定」を結び、日本ユニセフ協会の協定地域組織として、「岩手県ユニセフ協会」となりました。

岩手県ユニセフ協会は、8月2日、サンセール盛岡において、理事・監事・評議員40名の出席をえて、「2011年度第1回理事会・評議員会」を開催し、「2010年度事業と決算・監査報告」、「2011年度事業計画」、「岩手県ユニセフ協会役員について」の議案を審議、提案どおり承認・決定いただきました。

今回の理事会で、設立以来会長としてご尽力いただいた村田源一朗氏が退任し、新会長に三浦　宏岩手日報社代表取締役社長が就任いたしました。

特別報告「ユニセフ　東日本大震災報告」、ユニセフ盛岡事務所の近藤智春フィールドマネージャーからありました。

▲顧問に就任した村田源一朗氏

ユニセフ・東日本大震災支援　ボランティア活動に参加して

ボランティア講習会

4月4日、日本ユニセフ協会は、子どもたちと保護者の心のケアに学生ボランティアやユニセフボランティアを対象に講習会を県立大キャンパスで開催。日本プレイセラピー協会の湯野貴子代表・本田涼子理事から、遊びを通した子どもの心のケアなどを学びました。

県立大学生ボランティアと一緒に受講 ▶

救援物資の仕分け

3月27日、長靴の入ったダンボール箱に英語で色やサイズが書かれているものを、日本語でわかるように表示する作業でした。雪のちらつく中、山のように積まれたダンボール箱と向き合いました。大学の入学式が延期になった息子も手伝ってくれました。それらがトラツクに積まれたときは歓声が上がりました。〈反町 久美〉

学校再開支援

4月17日、山田の船越青少年の家で、小学校再開のお手伝いに行きました。たくさんの避難されている方々にもお手伝いをいただきながら、教室づくりのための机やイスの運び出しの仕事をしました。女性には少々きついものでしたが、このような中で学校再開は大変な事で、早く落ち着いて学習できるようになるといいなあと願うばかりです。〈鈴木 通子〉

ユニセフ・こども遠足バス

5月3日、被災地10ケ所から内陸部にユニセフ・こども遠足バスがでました。盛岡動物公園·遠野ふるさと村・西和賀カタクリ・花巻賢治童話村など親子で参加し、私は、西和賀無地内カタクリ群落に行きました。町をあげての歓迎、自然観察員の案内でカタクリ・二輪草の群生地見学、山菜の天ぷらづくり、学生ボランティアと遊ぶ子どもたちに少しホットしました。でもお父さんやお母さんは沈みがち、みんな一日も早く元気になってほしい。　〈藤原 綾子〉

舘が森アーク牧場

6月5日、私たちは目的地に向かう車中でボランティアの心得をしっかり学び、沿岸の子どもたちを迎えました。初めて来た私は広大な牧場にビックリ。小学生女子グループと迷子になってしまい、ユニセフ車にひろってもらい、そこでユニセフって?･･･一分間の学習、弾む会話やおいしく食べたお弁当は、自然の中だからこそできたステキな交流だったと思います。〈花田 陽子〉

チャグチャグ馬こ

6月11日、「盛岡チャグチャグ馬こ」に招待された沿岸の子どもたちのお世話役でして参加しました。キラキラと飾った大きな馬に最初はこわごわ・・・乗せてあげると嬉しそうな笑顔の子どもたち。広い馬っこパークでは、元気いっぱいに遊び、たくさんの笑顔に出会い、これからも出来ることをやっていかなければなぁと実感した一日でした。〈猿舘 佳恵〉

▲3月27日　大槌町

▲避難所安渡小学校、ユニセフ·安田直史医師と佐藤本部長

▲中央公民館で出会った女の子

子どもたちのこころのケア

姉の安否が確認できないまま、津波から10日目に被災地に入りました。明かりがボツリボツリと灯っている中、姉の家の辺りだけが黒々と闇に覆われていた。恐る恐る坂を登っていく。姉は無事だった。

浄水場から水を運び、炭で暖をとり、神社に届けられるおむすびを分け合って生きていたのです。「生きている」このことだけで今も嬉しさに涙があふれる。姉の無事を確かめ安堵していた私、この人たちに届けられるものは何?…私自身がこの日から無力感に負けそうになり、今日できることは?と一日一日を過ごしていました。そんな時、ユニセフから「子どもの心のケアのために」保護者むけチラシのボランティアの声がかかりました。「子どもたちは、どのような苦境にあっても未来に向かって生きている」　作業は、私自身の心のケアでもあった。戦後お世話になったユニセフに、今また助けていただいています。〈松田　道子〉

いわてユニセフ10周年

10年のあゆみをふりかえり、
更なるユニセフ活動のひろがりをめざし、
いわてユニセフ10周年記念事業を実施しました。

第1回ユニセフいわてラブウォーク　2011年5月22日

～東日本大震災の子どもたちのために・新緑の中津川べりを250人がウォーク～

“健康づくりのウォーク"と“ユニセフ募金運動"とを結びつけたこの運動は、1965年にイギリスで生まれ、日本では、ユニセフ・ラブウォークと名づけ、健康づくりと国際協力推進のために日本ユニセフ協会が中心となり、1983年日本ラブウォーク協議会を発足させました。

いわてユニセフ10周年記念公演　2011年8月7日

第1部　Music for Peace

一関修紅高等学校音楽部、キャラホール少年少女合唱団のみなさんによるコーラスに会場は魅了されました。歌で交流を深めていこうと大槌町「キッズコーラスあぐどまめ」の5名を招待しました。

▲キャラホール少年少女合唱団

▲キッズコーラスあぐどまめ

キャラホール少年少女合唱団とユニセフの支援で参加▶された大槌町「キッズコーラスあぐどまめ」のみなさん…来年2月のジョイントコーラスも楽しみですね。

第2部　「地球のステージ5 ～果てなき地平線～東日本大震災含」公演

精神科医桑山紀彦さんはNPO法人「地球のステージ」の代表理事として、災害時の緊急医療支援や、紛争地や被災地で心に傷を負った人への心理社会的ケア(心のケア)を中心として海外支援活動を続けています。
ステージ5は国際協力編・ガザ危機編・初の「国内」をシリーズ「ヒロシマ篇」、「東日本大震災編」、名取市の被災地や国際クリニックでの診療の様子に、「被災地に思いをはせ、涙が止まりませんでした」「何かお役に立つことをしたいなあと思いながら聞きました」「素敵な時間をありがとうございました」など・・・また、「最高のステージにご招待いただき本当に感謝です。桑山先生から心に大切な宝物をいただいて帰ります。本当に来てよかった」と被災者の方のアンケートもありました。

岩手県ユニセフ協会 Information

花巻友の会　ユニセフ平和チャリティコンサート　>>7月31日

歌声を通して被災地の子どもたちに夢と希望を!

7月31日、花巻市なはんプラザで、被災された方をご招待しユニセフ平和チャリティコンサートを開催。不来方高校音楽部・花巻南高校・花巻北高校の合唱、コーラス四つ葉・響流はなまきのみなさんの合唱に魅了され、感動のステージとなりました。

会場で呼びかけた東日本大震災緊急募金75,161円、ご協力ありがとうございました。

ユニセフ出前講座　>>8月9日

久慈コープ理事　長坂由美子さん

一時避難所にいた子どもや、ユニセフ支援の学用品を持って来ている子どももいました。ユニセフすごろくはコマになって、書いてあることを読んだ子どもは面白かったらしいです。注射器、水がめ、地雷などの小物は良かったと思います。中でも一番受けていたのが、砂糖と塩を溶いた水(経口補水塩)でした。

ユニセフハンド・イン・ハンド募金活動　2011年11月〜12月

テーマ「東日本大震災支援・子どもたちの笑顔のために」

ユニセフ街頭募金活動 ボランティア募集!!

昨年は、県内36会場、989人(子ども792人)のボランティア参加

▲イオンモール盛岡

▲MOSSビル

募金活動 街頭	12月 4日(日)	花巻市	11:00〜13:00 イトーヨーカドー、アルテ・マルカン
	12月11日(日)	盛岡市	①11:00〜13:00　②13:00〜15:00 カワトク、MOSSビル、クロステラス、ホットライン肴町 イオンモール盛岡、イオン盛岡南ショッピングセンター

※いわて生協　県内各地域で実施…詳しくは組織本部まで　TEL 019-603-8299

ユニセフカード・ギフトの頒布

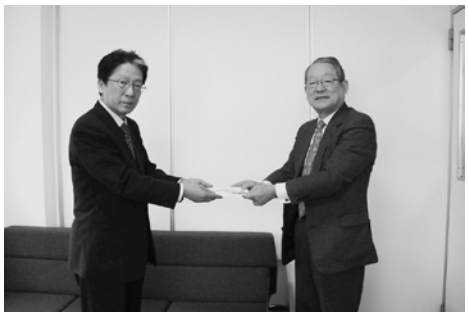
ユニセフ・カード&ギフトは各イベント会場でご利用いただけます。

2012年のカレンダー、クリスマスカード、年賀状など価格の約50%はユニセフ募金となります。

イベント日程のご案内

・10月16日(日)いわて生協福祉まつり (盛岡市大通歩行者天国)
・10月28日(金)岩手県消費者大会　(サンビル)
・12月4日 (日)ワン・ワールドフェスタ　(アイーナ)

ユニセフ募金贈呈　>>4月13日



4月13日、(株)サンギフト代表取締役千田　稔氏が岩手県ユニセフ協会を来訪し、加藤善正副会長に募金698,420円を贈呈しました。

ユニセフ・東日本大震災写真・パネル展

花巻市妙円寺・盛岡市アイーナで、8月1日〜7日で開催。

3月11日14時46分、大震災発生から2ケ月余りの被災地の様子と、ユニセフの支援活動を紹介

ユニセフ手洗いダンス　しませんか!

せっけんを使った正しい手洗いは、子どもたちの命を感染症から守ります

「世界手洗いダンス」を幼稚園・保育園でやってみませんか。県ユニセフ協会までお申し込みください。

昨年、どんぐり保育園で実施▶

あとがき

● 3月27日、日本ユニセフ協会菊川穣さんと、岩手県担当フィールドマネージャ安田直史医師と一緒に被災地釜石・大槌に入った。自衛隊の車が行き来しさながら戦場のようだった。
大槌町災害対策本部・中央公民館避難所・安渡小学校避難所を訪問し、子どもたちにサッカーボールなどが入ったレクレーションキットを渡し、救援物資に続くユニセフの支援…
ユニセフアフガニスタン現地事務所から竹友有二さん、ケニアから水野谷優さんなど日本人スタッフもかけつけた。でも、車もガソリンもない中で、現地に出向くためのボランティアをしていただいた舘洞さん、赤石さん、岡村さん、水野さんには本当に感謝しています。

● 災害対策本部盛岡事務所のみなさんの、この間の怒涛のような毎日のユニセフ支援に頭が下がります。県ユニセフ協会のボランティアスタッフや学生ボランティア、いわて生協CVCのメンバーのみなさんと一緒にユニセフボランティアとして参加し、多くの出会い、つながり、やさしさにふれました。子どもたちが笑顔になれるようにこれからもできるところから応援したいと思います。